赤川先生の思い出

M⑬　濱口八朗

私が赤川先生から最初にご指導を頂いたのは、3 年生前期の「蒸気工学」の授業でした。授業の冒頭、「蒸気機関車も走っていない現在、なぜ蒸気工学を学ぶと思うか？」との問題提起をされました。そして「電気を作るのに蒸気タービンが必要であること、電力需要は 10 年で倍増する、そのためダムの建設に年月を要する水力発電では間に合わない」ことを話され、腑に落ちたことが今も思い出されます。このことにより、理学と工学の違いをも教えて頂いたのだと思います。

先生は京都帝国大学工学部航空工学科をご卒業後、神戸大学に赴任され、工学部助手、助教授を経て教授になられました。この間、ボイラ内の流動現象として、気液二相流の研究をされてきました。当時は気液二相流はまだ学問として十分認知されていなかったようですが、先生は研究を通して気液二相流を学問として位置づけられました。そして気液二相流に関する著書も著わされ、さらに日本混相流学会を創設され、初代会長に就かれるなど、様々な業績を残されています。

赤川先生は私ども 13 回生の学生にとっては、4 年生になる春休みには、1 週間にわたる見学旅行に引率していただき、4 年生の就職担当もされるなど、いろいろとお世話になりました。就職に関して、先生ご自身が敗戦後の就職のとき体験された当時の状況などの貴重なお話も聞かせていただきました。

赤川先生には 4 年生と修士課程でお世話になりました。先生は研究の話になると、議論がお好きで、夜遅くまでおじゃますることもありました。先生のお部屋は 3 階の東の端で眺めが良く、そのときの美しい夜景が印象に残っています。また、夏には議論の休憩時に生協で買い求めたアイスクリームをごちそうになるなど、良い時代の思い出です。学生生活を終え、神戸大学教育学部でお世話になった後も、いろいろとご指導を頂きました。

すでに 5 年程前になるでしょうか。先生が体調を崩されておられることを知り、夙川のご自宅近くの施設にお見舞いに行きました。そこでは職員の人も親切で、いろんなプログラムがあり、居心地が良いとのことで、ご満足のようでした。私の顔を見るなり、「神戸大学の改革はどうなっている？教育学部はどうなっている？」と聞かれました。次回、資料を整理し持参した際、教育学部と教養部は大きく改革されたことなどの話に熱心に聞き入られ、退職後 20 年以上たっても神戸大学のことを気にかけておられるお姿に心を打たれたことが今も思い出されます。お疲れではないかと心配しましたが、お話しさせていただけたことは大変ありがたいことだと思います。

赤川先生のご冥福をお祈りいたします。

（ 終 ）

追悼文受付日：平成 28 年（2016 年）3 月 27 日　